

中村研一と中村琢一展



中村研一 《サイコンの夢》 1947年 福岡県立美術館蔵



中村琢一 《小犬と女》 1968年 福岡県立美術館蔵

重なり合う、まなざし。

2024年

12月21日(土) ≪ 2025年2月2日(日) ≫

- 月曜日休館、ただし、1月13日(月・祝)は開館、翌14日(火)は休館、年末年始(12月28日～1月4日)は休館
- 観覧時間／午前10時～午後6時(ただし入館、入場は午後5時30分まで) ● 主催／福岡県立美術館
- 特別協力／中村研一・琢一 生家美術館、占部建設株式会社、タワー不動産株式会社 ● 協力／宗像市

福岡県立美術館

中村研一「小さき魚つり」 1926年
個人蔵(中村研一・琢二生家美術館寄託)



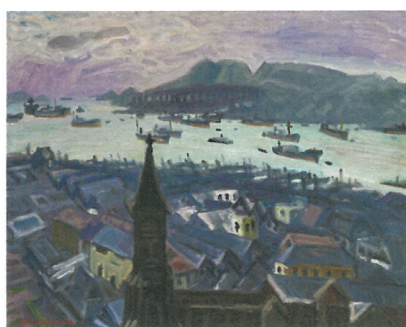
中村研一「庭の静物」 1960年
占部建設株式会社蔵



中村研一「朝の庭」 戦後期
占部建設株式会社蔵



中村研一「長崎風景」 1950年
タワ一不動産株式会社蔵



中村研一と 中村琢二展

中村研一(1895~1967)と中村琢二(1897~1988)は、いずれも日本の洋画に大きな足跡を残した宗像出身の画家兄弟です。出身は同じでも、早熟の天才型の研一に対し、大器晩成型の琢二、さらには、正確なデッサンと線に基づき、光と影のコントラストを明確に表現することにした研一に対して、透明感のあるみずみずしい色彩でやわらかな描写を魅力とする琢二というように、生まれもった性格や作風には大きな違いがあり、それが二人の個性を際立たせています。

久しぶりの二人展としてこのたび開催する本展は、近年発見された中村研一の滞欧期の初公開作品を中心に、その他の初公開作品も多数まじえて、彼らの画業の魅力に迫ります。また、近年の中村研一と中村琢二の画業の顕彰の背景には、地元である宗像市や古賀市の有志による、長きにわたる作品収集と公開の歴史があり、本展では、それらのコレクターの活動にもスポットを当てます。本展を通じて、地域文化の誇りとして愛されてきた、宗像が生んだ二つの巨星、中村研一と中村琢二の絵画を存分に味わっていただけたら幸いです。



中村琢二「婦人像」 戦後期
タワ一不動産株式会社蔵



中村琢二「箕面の滝」 1974年
福岡県立美術館蔵



中村琢二「セロを弾く男」 1950年
個人蔵(中村研一・琢二生家美術館寄託)



中村琢二「波勝崎」 1973年
福岡県立美術館蔵

担当学芸員によるギャラリートーク

2024年12月21日(土)、2025年1月25日(土)、2月1日(土)
いずれも14時~(30分程度)

開催場所/福岡県立美術館4階展示室内

参加無料(要観覧券)、予約不要

本展担当学芸員の高山百合が展覧会や作品についてお話しします。

●入場料/一般 500円(350円)、

高大生 200円(140円)、小中生 100円(80円)

* ()内は20名以上の団体料金 * 65歳以上の方は特別割引料金
* 以下の方々は無料 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方及びその介護者/教職員が引率する小・中・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の児童生徒及びその引率者/土曜日来場の高中生以下の方



◎当館駐車場についてのお知らせ

須崎公園再整備工事により、当館駐車場の利用ができません。ご迷惑をおかけいたしますが、近隣の有料駐車場をご利用いただくか、公共交通機関をご利用のうえ、ご来館ください。

《交通アクセス》

- * 地下鉄 「天神駅」天神地下街東1aまたは東1b出口から徒歩10分
- * 西鉄電車 「西鉄福岡(天神)駅」から徒歩15分
- * 西鉄バス 「博多駅」から
「博多駅前A」からBRTに乗り、「福岡市民会館」下車徒歩2分。あるいは、301・302・333番等に乗り、「天神北」下車徒歩5分
「博多駅シティ銀行前F」から46番に乗り、「市民会館南口」下車徒歩2分(天神から)
「天神ソラリアステージ前2A」から20・80・90番に乗り、「市民会館南口」下車徒歩2分
- * 自動車 福岡都市高速「天神北」または「築港」から3分

福岡県立美術館

〒810-0001 福岡市中央区天神5丁目2-1
(092)715-3551
<http://fukuoka-kenbi.jp/>